



「ワークショップで社会が変わる」シンポジウム

催事名称	「ワークショップで社会が変わる」
開催日	2011年10月2日（日）13:00-17:00
場所	青山学院大学青山キャンパス 14号館 11階第19会議室
登壇者	荻宿俊文教授（青山学院大学）、五島朋子准教授（鳥取大学）、齋藤啓子教授（武蔵野美術大学）、武石みどり教授（東京音楽大学）、津上智実教授（神戸女学院大学）、茂木一司教授（群馬大学）、蓮行講師（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師／劇団衛星 代表／WSD 推進機構理事）
主催	青山学院大学社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラム事務局
共催	特定非営利活動法人ワークショップデザイナー推進機構
催事の概要	<p>平成23年度第1回ミュージック・コミュニケーション講座の講師をご担当下さった青山学院大学の荻宿教授呼びかけの下、ワークショップに係る人材育成に取り組む音楽系、演劇系、美術系それぞれの大学が参加し、「ワークショップで社会が変わる」と題したシンポジウムが開催された。第一部「社会は大学を変えるメディアとなれるか」では、司会の荻宿教授と上記6名の登壇者による特色豊かな事例報告や活発な議論が展開された。また、会場となった青山学院大学の教室は130名を超える参加者で溢れ、登壇者の報告や議論を熱心に聞き入る様子が見てとれた。</p> <p>演劇系、美術系とそれぞれ興味深い報告が行われる中、武石教授、津上教授から、音楽系大学が抱える教育上の問題とそれに対する3大学連携の取組についての報告がなされた。中でも、武石教授による、身体性・自己原因性を縦軸とした「伝統的コンサート」から「体験型ワークショップ」に至る音楽と人との関わりの変容の図が大きな関心を集め、また、音楽系大学の学生特有のキャリア形成の現状の報告については場内の参加者からも驚きの声が発せられた。</p> <p>最後に、荻宿教授より「それぞれの専門性を残しながら他者と結びついていかななくてはならない」「積極的に二足の草鞋をはくことが重要」「これからの大学は教育・研究だけでなく積極的に社会貢献する機関であるべき」との課題提起を受けて第一部を終えた。</p> <p>休憩を挿んで行われた第二部は、5～6人程度の小グループに分かれ、各々自己紹介をしながらの交流会が催された。こちらも大変盛況で、グループ編成を何度か替えながら参加者同士の盛んな交流が行われていた。</p>

